

《 患者の皆様へ 》

2022年5月22日

医療技術部リハビリテーション室 言語聴覚部門

現在、医療技術部リハビリテーション室言語聴覚部門では、「急性期の注意障害患者におけるパズル課題と注意機能との関係および日常生活への影響」に関する研究を行っています。この研究では高次脳機能評価およびパズル課題を受けた患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

急性期の注意障害患者におけるパズル課題と注意機能との関係および日常生活への影響について

2. 研究の意義・目的

急性期の脳血管障害によって、意識は清明で顕著な麻痺や失語を認めないにもかかわらず、動作が性急で安全性に欠ける行動をする患者さんが存在します。こうした患者さんの高次脳機能評価では全般性注意障害を認める例が多く、一般に訓練では集中力やピースの形・模様を識別、構成を通じて「楽しさ」や「面白さ」、「達成感」などを得ながら注意機能の改善を目的としたパズル課題が使用されてきましたが、注意機能の改善に焦点をあてた報告はありません。そこで、本研究では1)パズル課題の誤反応と標準注意検査法(Clinical Assessment for Attention : CAT)の成績との関係を調べること、2)全般性注意障害患者のパズル課題の所要時間と誤反応数、誤反応の質の変化を分析すること、3)パズル課題を達成した注意障害患者の日常生活における行動の変化をCATと信頼性と妥当性を認めた日常注意機能評価スケール(Assessment Scale of Attention in Daily Living : ASAD)で分析し、パズル課題が日常生活にどのように影響するか検証することで注意機能の改善に貢献できると考えました。

3. 研究方法・研究期間

本研究では、患者さんのカルテからデータを集積し解析を行います。

研究期間：倫理審査承認後～2025年3月31日

4. 研究費用負担のないこと

この研究に係る費用をあなたが負担することはありません。尚、研究にご協力して頂いたことに対する金銭を含めた報酬はありません。

5. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等の管理は、匿名化の上に千葉県済生会習志野病院言語療法室の鍵のかかる棚で保管します。

6. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

7. 本件のお問合せ窓口 社会福祉法人恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院

診療科名：医療技術部リハビリテーション室

研究責任者・代表者：言語聴覚士 渡邊望

電話番号：047-473-1281